

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム イチョウの木
(ユニット名)	若葉
所在地 (県・市町村名)	長崎市川口町8-20
記入者名 (管理者)	竹田 勇介
記入日	平成 20年 12月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念以外に、介護理念を設け、「入居者」「ご家族」「地域」それぞれに理念を作り上げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時の確認や目に付きやすい場所への掲示、また、勉強会において、グループワークを通して、「理念」=チームとしての目標であることを確認するなどの取り組みを行っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	第1回目の運営推進会議において、理念について説明させていただいた。その他にも、パンフレット・契約書・広報誌などへの掲載により、より多くの方々に、当事業所をアピールできるように心がけている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	食材や物品など必要なものをできる限り、地域の商店街より利用することにより、店の方や買い物客の皆様と顔見知りになることができ、日常的に挨拶を交わすなど関係が築けている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入はもとより、近隣の歩道や公園の清掃などを入居者様と共に行なうことによって、職員も入居者も事業所全体が地域の一員として活動できるように努めている。		

グループホームイチョウの木 6階若葉

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>法人内の医院、デイサービス、ケアプランセンター、グループホームが1つになって、地域の方々(地域住民、ご家族、他事業所ほか)にむけた認知症セミナーを定期的で開催している。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価作成前に、ユニット内の職員全員で、自己評価及び外部評価実施の意義について話し合いを行なっている。また、一人ひとりに自己評価票を作成してもらい、ユニットの自己評価としてまとめている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回のペースで開催している。その中で、ご家族からのご意見・要望はもとより、自治会長、老人部会長、包括、市の職員の方々からの視点(当事業所がどのようにうつっているのか)をお伺いし、事業所運営に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市より介護相談員を受入れている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>月1回開催されている勉強会において、議題とし学ぶことができた。現在は、ご利用されている方はいない状況だが、ご家族にも権利擁護の仕組みを説明し、いつでもご利用できるように体制を整えている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人内で、委員会を設置し、毎月の管理者会議で各事業所別に報告し、全体の報告をユニットに持ち帰り、職員にも伝えている。また、毎月の勉強会において、議題し学ぶことができた。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者の下に、副ホーム長を置くなどして未来の管理者候補づくりにつとめている。また、多様な委員会を設置したり、理事長の他事業所往診時に、同行させていただくなど、1つ1つが職員にとって勉強になる取り組みが行なわれている。特に、事業所で開催している認知症セミナーでは、様々な認知症の事例に触れることができ、職員の技術・知識向上にも繋がっている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会発足に携わった。現在もグループホーム協議会へ加盟している。その他にも、事業所にて開催される認知症セミナーの案内をさせていただき、多くの参加が見られている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月に9日の休日が確保できている。これ以外にも、リフレッシュ休暇や有給休暇の活用も促進されている。また、勤務時の休憩時間の確保や夜勤体制も「明け」を設けるなど、ストレスをためこまないように工夫されている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	昇給など待遇面でも心掛けていただいている。また、職員一人ひとりが主役になれるように、必要最低限、口出しはせず、自分たちで解決できるような配慮がなされている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	支援内容以外にも、一人ひとりの生活背景をこと細かく(失礼のないように)お尋ねし、本人を知ることに努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人と同様に、ご本人がいかにより良い生活が送れるか、またご家族との関係も継続することができるかに力を入れて、信頼関係構築に努めている。	

グループホームイチョウの木 6階若葉

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内に、デイサービス、ヘルパー事業が存在している為、ご本人・ご家族には、出来るだけ大きな視野で選択していただける様に、他サービスの説明(必要であれば見学していただく)を行なうこともある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に、当ホームへ遊びに来ていただいたり、入居者、職員と一緒に外出するなどの「馴染し」を実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員は昔の事をお聞きし教えて頂いたり、年配の職員では共に共感したりと、日々の生活の中で喜びを共有している。利用者のお誕生日には全利用者・職員でお祝いをし共に喜び合っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内でのイベントや外出の際には家族の方にも参加していただいている。面会に来られた際は共にフロアでレクレーションに参加していただいたりすることで喜びを共有していただいている。	○	今後もご家族の方との連絡を密にとり、信頼関係を持ちながら共に支えあう関係を築いていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係が上手くいっていないところはなく、面会時にはホームでの暮らしをお伝えしこれまで以上に良い関係が築いていけるよう支援している。	○	今後も本人や家族の希望(例えば外出や外泊等)をお聞きし支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や美容院、教会等馴染へ出向く機会を多く持っている。	○	今後も本人・家族の希望を聞きながら馴染みの場所へ出向いていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性は良好で、食事やレクレーションの際には笑顔でお話される場面がある。寝たきりの方に関しても一人ぼっちの時間を少なくし、できるだけ離床していただきフロアで過ごしていただいている。	○	本人の体調考慮しながら、フロアで過ごす時間を多く持つていただけるよう支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院等で一時退去となった際でも定期的にお見舞いに行き関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを尊重し支援している。認知症の進行に伴い希望や意向の把握が困難な際は、行動や表情 又、ご家族の思い等を汲み取り支援している。	○	決してスタッフ本位になることがなく、利用者本位の視点で支援にあたる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始時にはアセスメントを行い、本人ご家族から生活歴・生活環境、好きなもの等をお聞きし情報の把握に努めている。頂いた情報は職員間で共有しケアにあたっている。	○	日々の暮らしの中で聞いた利用者や家族からの情報等も生活史の中に汲み入れてゆき、スタッフ間での情報の共有に努めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人が今何ができて何ができないのか、何をしている時楽しいと思われているのかを日々の生活の中で観察し把握できるよう努めており、できることに着目しケアにあたっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ会議の際に今現在ご本人に何ができて何ができないかを協議し、できることに着目し介護計画を作成している。又、介護計画書の作成にあたっては、本人・家族の意向もふまえ行い、必要な際は医師・看護師への相談も行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現在三ヶ月おきに見直しを実施しており、対応できない変化が生じた際は、ご本人・ご家族・スタッフ 又は関係機関との連携を図り対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録表に日々の様子を記録し、情報の共有を図っている。又、経過記録表の前面に介護計画書を添付し、記録時参考にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスに歌や踊りのボランティアさんが来られた時には、一緒に参加させていただいている。看護師を配置しており、ホーム内で行える治療はホームで行い、入院による環境変化のリスクを減らしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ヘルパー実習、看護学生の実習の受け入れを行っている。消防訓練の際には消防署指導のもと避難訓練を実施。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	福祉用具についての情報を得ており、必要に応じて購入している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の際には包括支援センターの方にも同席頂き情報を頂いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携はこまめに行っており、月一回皮膚科往診に来ていただいている。その他にも歯科・眼科・整骨院等への受診も行っている。		

グループホームイチョウの木 6階若葉

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>経営母体が認知症専門の医療機関ということもあり、医師に毎日状況報告を行なっている。</p>		
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>各ユニットに看護師が配置されている。ユニットの看護師が不在の際は他のユニットからの支援がうけられるよう看護師不在がないよう勤務調整行っている。</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時にはサマリーを作成し、病棟看護師に情報提供おこなっている。入院中も定期的にお見舞いに行き状態の確認を行っている。2Fが内科となっており、看護師も配置されているため早期退院となっている。</p>		
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期の同意書を作成しており、ご家族の希望に沿ったターミナルケアへの取り組みを行っている。</p>		
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人・家族の意向に沿った支援をおこなっている。医療機関との連携を密に取り、緊急時の対応に努めている。</p>	○	<p>ターミナルケアに関しての勉強会等実施し対応については学んでいるが、スタッフの間で不安の声が出ないよう今後も対応については学習していきたい。</p>
<p>49</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入院等で環境が変わる際、馴染みのスタッフ付き添いにて対応している。又、現在までのケアの内容について関係者間で協議し、ケアの方法を伝えている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>お一人お一人の尊厳と人権の保護に努め、言葉かけや対応についても失礼のないよう気を付けている。</p>	○	ふとした時に馴れ馴れしい口調や、失礼な言葉使いになっている時があるので、職員同士気がけていきたい。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>職員の都合で決めることなく、その方に合わせた選択肢を提供し自己決定し、納得したうえでの支援を実施している。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>一動作一声を忘れずに、常に自分本位ではなく利用者の視点で言葉かけを行い希望に沿えるよう支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>起床時の整容、外出時のおしゃれ等気を配っている。行きつけの美容室がある方はそちらに行けるよう支援している。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>刺身の盛り合わせやお好み焼き等は目の前で盛り付けたり焼いたりして楽しんでいただいている。準備や片付けに関しては現在職員の方で行っている。</p>	○	盛り付けや準備等できない方に関しても、実際に盛り付けた器具を見てもらい意見を伺う等行っていきたい。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>お酒を飲まれる方は好きな時に飲んでいただいている。おやつに関しては好みのものをお出ししており、希望があれば外出しアイスやケーキ等を食べに出かけている。</p>		

グループホームイチョウの木 6階若葉

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿チェック表をもとにその方の排尿パターンを見ながら、その方に合った声掛け・誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の体調考慮しながら、入浴前には声かけを行い本人了解のもと入浴いただいている。拒否される方に関しては後日タイミングを見ながら声掛けし入浴いただいている。湯船の温度も各人の好む温度にて入浴していただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の体調考慮し、また生活リズムに合わせて適時声掛けを行い休息していただいている。訴えない方は、その方の表情や状態に応じ支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌を唄うこと、絵を描くこと 家事がお好きな方等さまざまならっしゃりその方が今楽しみながら出来ることを中心に支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	教会のミサに参加した際にはご自分のお財布を持ち、献金箱に献金していただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	訴えのある方に関してはその方の希望に添って援助している。訴えない方は、こちらから声かけを行いお散歩や買い物等のお誘いをし外出を支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	水族館やデパート、ケーキ屋さん等の外出を行なっている。お花見やおくんちといったイベントの際はご家族にも連絡し外出計画を立てている。		

グループホームイチョウの木 6階若葉

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけていただいている。お手紙が来た際はお渡しし、読んでいただいている。	○	遠方に住まれている家族に対し、電話やお手紙でのやり取りができるように働き掛けていく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時にはお茶をお出しし、最近のご様子やお写真をお見せし本人とゆっくりとくつろいでいただけるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会を設置している。また、月1回の勉強会やミーティングなどにおいても取り上げたり、介護の職業倫理の徹底も行なっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出来るだけ鍵をかけないようにしているが、夜間等の必要時には鍵をかけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は常にフロアに職員がいて、見守りできるようにしている。夜間は適時巡回し安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	鉋や包丁をお部屋に持ち込まれている方もいらっしゃるが、ご本人の状態には十分注意を払い対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフ会議等でお一人お一人に対するリスクマネジメントを行っており、事故防止に取り組んでいる。		

グループホームイチョウの木 6階若葉

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	普通救命講習に参加。参加できなかった職員に対しても勉強会やスタッフ会議等を通し伝えている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の総合訓練の実施時に、地域の方々へ呼びかけを行なうなどしている。	○	当法人の建物を避難場所として提供することも、必要ではないかと考えている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態の変化等あった際にはご家族に連絡し、対応を話し合っている。水分摂取量の少なくなった方に対しご家族と話し合い補水のための対応を検討。		
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタル測定を実施しており、状態の変化に気付いた際は速やかに主治医に報告し対応を図っている。日々の健康管理とともに、少しでも早く状態の変化に気付けるような観察力の向上にも努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人の処方箋をファイリングし、目的・用法等の理解に努めている。新しく処方されたお薬に関しては主治医より報告いただいている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘がちの方に関しては、水分や繊維の多い食品を摂って頂くようにしたり服薬調整を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後MC実施している。嚥下機能低下がみられる方にはMC時に口腔内マッサージも合わせて実施している。		

グループホームイチョウの木 6階若葉

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量の記録を行っている。摂取量の増・減傾向みられた際には主治医に報告し対応を図っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ユニット入退時に、手指の消毒を行なっている。また、入居者、ご家族、職員も出来る限り同時期にインフルエンザ予防接種を受けていただけるように努めている。感染症対応マニュアルも完備している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	作り置き等せず、その日の食事はその日に作っている。野菜等も新鮮な物を使用し衛生管理に努めている。消毒の意味もかねて食器乾燥機を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ビル型の建物で6階に位置しているということもあり、親しみやすさという点では疑問もあるが、玄関には季節のお花や展示物を飾り明るい空間作りに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や利用者の方が目につきやすい場所には、季節のお花や展示物を飾り季節感を演出している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	認知症の程度がさまざまでご本人同士での会話は難しく、職員が仲介役という形で利用者間の会話を楽しんでいただいている。ソファや畳の場所等でも過ごしていただいている。		

グループホームイチョウの木 6階若葉

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫 をしている	家具の持ち込みに関する制限はしておらず、ご本人・ご家族と相談しながら使い慣れたものや、ご本人が安心される物等を持ってきていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	こまめに空気の入替えをおこなっている。室温に関しては お一人お一人に合わせた調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	各必要場所には手すりを設置している。片麻痺の方に関し てもトイレ介助時には手すりにつかまり立ちしてもらう等してご 自分でできることはしてもらうようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	その方が今何が理解できて何が理解できないのかを把握 し、理解できることを中心にコミュニケーションや環境作りの 場面に活かし、失敗による自信の喪失を防いでいる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	屋上にお花や野菜の苗を植え、水やりを行っている。天気 の良い日には屋上でお茶を飲んだり、洗濯物を干したりしてい る。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは「認知症という病気を持つ入居者の方が、病期のどの段階でも普通の生活ができるよう専門的に援助いたします。」という理念のもと、重度の方 寝たきりの方等いらっしゃいますが、お一人お一人が自分らしく豊かに生活できるよう支援させていただいております。また、重度になっても最後まで安心して過ごして頂ける場所としてご家族の方よりも安心と信頼をよせて頂いております。職員の教育に関しても、事業所内での勉強会・外部混合での勉強会（長寿会セミナー）・外部研修等を行い専門的ケアを提供できるよう日々取り組んでおります。